なにわみやげ

#22 難波土産

作者：穂積以貫（ほずみ・いかん　1692-1769）*あるいは*
　　三木貞成（みき・さだなり　生没年不詳）
刊行：元文３年（1738）

◇◇◇

■　作者

作者については、穂積以貫あるいは三木貞成としている文献もあり諸説ある。穂積以貫、三木貞成はいずれも江戸時代中期の儒学者伊藤東涯（いとう・とうがい）門下である。

穂積以貫は近松門左衛門と親交があり、浄瑠璃作者近松半二の父である。三木貞成は備前岡山の富裕な人で、大阪に出かけて浄瑠璃に親しんだと言われている。

📖　本文を読む

＜版本＞

『浄瑠璃文句評註　難波土産　巻之一～巻之五』浪速書房 1738
［912.4/20/1］－［912.4/20/5］

＜翻刻＞

「浄瑠璃文句評註　難波土産」（『新群書類従　第６　歌曲』国書刊行会 1907）［081/4/6］

『淨瑠璃文句評註　なにはみやけ』上田万年校訂 文憲堂 1926［912.4/6］

＜現代語訳＞

「難波土産発端」守随憲治訳（『古典日本文学全集 36（芸術論集）』筑摩書房 1962［918/11/36］　※抄訳

📖　参考文献

「虚実皮膜論」（『鑑賞　日本古典文学　第 29 巻　近松』角川書店 1981）［918/112/29］

野間光辰「『淨瑠璃文句評註　難波みやげ』の作者」（『近世芸苑譜』野間光辰著 八木書店 1985）［910.25/79］